

令和7年度 伊那市立富巣小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価(a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
「自立共同の力を高める子ども」 ○よく考え やりぬく子ども ○仲よくみんなと支え合う子ども ○いつも明るくじょうぶな子ども	「伝え合い」「認め合い」「心・体づくり」 ～学び合い・想い合いを通して、気づき、共に育つ～
	今年度の重点目標
	(1)教科指導の充実 常に子どもたちを主体におき、子どもたちが意欲的に学習に取り組むよう、楽しくわかる授業の創造を目指して実践する。
	(2)学級経営の充実 学校教育目標具現の母体は学級である。個の主体性や好ましい集団の人間関係に支えられた自立共同の学級づくりを目指す。
	(3)生徒指導の充実 一人ひとりを温かく見取ると同時に、集団生活における規律と責任の大切さを教え、心の通い合った人間関係をつくる。

総合評価		
○児童アンケートの「学校は楽しいですか」の問いに95.1%の子どもたちが肯定的な評価をしている。保護者アンケートでも、同様の質問に対し、98.9%が肯定的な評価をしている。学校の行事が楽しいと評価している子も97.6%いる。学校全体としては、大きなトラブルはなく、子どもたちは落ち着いた学校生活を送っている。 ○児童アンケートの「授業内容は理解できている」の問いに、99.2%の児童が肯定的な評価をしており、全国学調・総合学力調査の結果は学年差はあるものの全体的に学力は高い。体力テストの結果では、県・全国平均よりも高い種目が多い。 ○地域とのかかわりが強い富巣地区の特徴を生かし、読み聞かせ・学習支援・農業体験等、多くの分野で地域の方から教わったり関わったりする活動を展開することができた。		
成果と課題	評価	改善策・向上策
(1)校内の研究体制を基盤とし、職員が互いの授業を通して学び合い高め合うことができた。積極的に授業公開や授業参観を行い、自身の実践につなげる職員が多かった。自己表現が苦手な子どもが友との関わりがもてるようにICTを積極的に活用するなどの工夫をした。ICTが苦手な職員は授業で活用できるように研修を積む。	Bb	○引き続き校内の研究体制を中心に互いの授業から学び合うスタンスを継続する。日常の授業に還る研究とし、失敗から学ぶことを大事に進めていく。多様な子どもたちの学びを保障するためにも、ICTをはじめ職員の研修や教材研究を積んでいく。
(2)学級担任だけでなく連学年をはじめ多くの職員と連携して子どもたちの指導にあたった。子どもたちの考えを大事に受け止め、子どもたちが主体となる学級づくりを行った。不登校の子どもが学校に登校することが増えたり、学年行事に参加したりできるようになった学年があった。	Aa	○今後も子どもたちの思いや考えを大切に受け止め、子どもたちの気持ちを大事にした活動が展開されていくように心がける。学級だけの活動に留まらず、異学年や他校との交流や活動にも積極的に取り組んでいきたい。
(3)児童アンケートの「困っている友だちがいたら助ける」は100%の子どもが肯定的な評価だった。些細なトラブルは時々あるものの、異学年との関わりも多く、日常的に仲良く遊んだり活動したりしている。	Bb	○子どもたちの変化に気づくことができるように、担任はアンテナを常に高くして子どもたちの様子を見ていく。事案が発生した場合は、チーム・組織で対応し、場合によっては、外部機関の支援も積極的に依頼していく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育課程	教育課程	○体験を通して学ぶ、総合的な学習の時間や教科学習等	○富巣ならではの学習や地域素材、栽培活動、農業体験活動、調理活動などの体験活動を重視した生活科・総合的な学習の時間・食育等に取り組み、富巣小の特色ある学習を展開してきたか。
		○子どもたち同士や地域とのかかわりを取り入れた教育活動	○「地域の方から学ぶ」「地域の方とかわる活動」を取り入れた教育活動を展開したか。
			○全校縦割りなかよし班での活動や児童会活動が展開できたか。
学習指導	学習指導	○授業における「伝え合い」	○友だちとの対話を通して、互いに考えを深め合う授業ができていたか。
		○子どもたち中心の分かる授業	○ねらいを明確にした授業、子どもの主体性を促す授業展開等により、子どもたちにとって、「わかる授業」になっていたか。
生徒指導	生徒指導	○一人ひとりの子どもたちに寄り添った適切で迅速な指導	○職員間での情報交換、児童との対話により児童理解に努め、家庭と連携しながら迅速な指導ができたか。
		○日常的に人権感覚を高める指導といじめ防止のための取り組み	○子どもたちの良さを認め、温かみのある学級づくり、人権教育や道徳教育への積極的な取り組みにより、日常的に人権感覚を高める指導ができていたか。 ○いじめの早期発見、対応、再発防止に取り組んでいたか。
学校運営	安全	○児童の登下校の安全確保	○日常の通学指導や定期的な街頭指導、えがおみまもり隊の活動により、子どもたちの登下校の安全確保に努めたか。
		○学校と地域、学校と保護者との協力体制の構築	○保護者や地域の方と協働体制の構築を進めたか。 ○学級だよりや学校だより等で学校の様子を積極的に知らせたか。
	研修	○子どもたち中心の分かる授業の授業研究	○一人一公開や模擬授業、授業研究会を通して、授業力向上を図ることができたか。

成果と課題	評価	改善策・向上策
○まつたけ学習は、まつたけ増産の会の皆さんのおかげで素晴らしい活動ができた。富巣地区の山に入り、まつたけの生育を教わったり下草狩りを行ったりした。学校でまつたけご飯やお吸い物を作って食べた。 ○しめなわ学習は、地域の方が講師となり、毎年4年生が唯一無二のしめなわを作っている。今年度は、公民館と一緒に地域の方と一緒に作った。	Aa	○まつたけ学習は、毎年6年生だけが行っている学習で、5年生以下は6年生になってまつたけ学習をすることを楽しみにしている。しかし、R6末に終了した増産の会はR7から延長になったが3年間限定である。その後も続くようになってほしい。 ○しめなわ学習は、今後も公民館の講座とコラボして行うことになった。学校と行政と地域がともに活動するしめなわ学習を今後も継続していきたい。
○北福地の自然環境をよくする会の方に学校の畑を耕していただいた。貝沼の自然環境を守る会の皆さんにスイートコーン・麦の栽培で種まきから収穫までお世話になった。4年生がお礼の会を計画し、小麦を使ったお菓子やパンなどを一緒に作って食べ、感謝の気持ちを伝えた。 ○多くの学年が保育園との交流を行った。年長組は学校に慣れる良い機会となった。 ○今年度も全校で12の縦割りグループを作り、6年生がリーダーとなり、児童会のイベントデー、読み聞かせ、スマイルタイムなど、楽しく活動することができた。	Aa	○貝沼の自然環境を守る会の皆さんは、学校や学年の栽培活動に対してとても協力的である。麦は毎年3年生が種をまき4年生が収穫している。他の学年も希望があれば早めに相談し、収穫の喜びを味わってほしい。麦の種まきは、3年生と年少組と一緒にやっている。3年後は6年生と1年生なので、続けていきたい。
○グループでの活動の中で、自分の考えや思いを友だちに伝えることが、どの学年でもどの教科でも多く見られた。iPadを使って発表することは、言葉で伝えることが苦手な子には有効だった。「自分の考えを伝えることができましたか」というアンケート項目では、肯定的な回答が、やや少なかった。 ○子どもの問いから始まる授業に心がけ、子どもの意識に沿った授業が展開された。そのためか、「授業で勉強していることはわかりますか」の問いには、99.2%の子が肯定的な回答をしている。	Bb	○日常の授業を中心に、グループでの話し合いを通して自分の考えや意見を友だちに伝えたり、友だちの考えを受け止めて、みんなが納得する答えを見つけていく場面を設定する。担任は自分の考えを発信することが苦手な児童に対しての手立てを考える。
○職員会議の中だけでなく、日常的に子どもたちの様子について情報交換している。組織で対応したほうがよい事案には、いじめ不登校対策委員会を開いたり、保護者を交えた支援会議を行ったりして、早期発見・早期解決に心がけてきた。	Bb	○引き続き、子どもの問いから始まる授業を常に心がけ、教師主導の授業にならないようにする。また、職員の重点研究会では、研究のための研究ではなく、今年度のように日常に還る研究を行う。
○職員間での情報交換、児童との対話により児童理解に努め、家庭と連携しながら迅速な指導ができたか。	Aa	○何よりも保護者との信頼関係を日頃から大切に築いていく。子どもたちには、一人一人の良さに目を向けながら、授業だけでなくいろいろな場面で対話していく。職員間でも子どもの良さを中心に日頃から情報交換を行う。
○子どもたちの良さを認め、温かみのある学級づくり、人権教育や道徳教育への積極的な取り組みにより、日常的に人権感覚を高める指導ができていたか。 ○いじめの早期発見、対応、再発防止に取り組んでいたか。	Aa	○子どもたちの良さを認めた温かみのある学級づくりのためには、職員集団が同じように温かみのある集団であることが望ましい。日常から子どもや職員の良さに目を向け、明るい話題が飛び交う職員集団を目指す。また、職員自身の人権感覚を高める研修・機会を設ける。
○年2回のアンケートだけでなく、日常的にアンテナを高くして子どもたちの様子を見ている。事案が明らかになった場合は、委員会を開き対応策を検討し、すぐ実践してきた。	Aa	○いじめ・不登校は、日頃からアンテナを高くして、いつもと違う様子はないか、子どもの様子を観察する。もしも、事案が発生した場合は、速やかに子どもや保護者、関係者から丁寧に事情を聴き、早期に解決できるように努める。
○年度初めの交通安全教室、年2回の街頭指導を機に、交通安全に対する意識を高め、交通事故防止に努めてきた。交通事故はなく過ごすことができた。えがおみまもり隊の方々の継続確認はできたが、具体的な活動や成果課題については話し合う機会がなかった。	Bb	○日常的に交通安全に対する意識を高める指導を機に応じて行う。特に、自転車の運転については、中学校からの自転車通学を見据えて、大事に指導する。 ○えがおみまもり隊の方々と話し合う機会を検討する。
○日頃から学校の教育活動だけでなく、日課の変更やお迎え等の依頼に対し、ご理解ご協力をいただいている。PTA活動や運動会のPTA種目、音楽会のPTA合唱には、ほとんどの保護者が参加されている。	Aa	○地域の方々は、とみがたっ子応援団の方々を中心に、日頃感じておられることを直接お聞きして子供たちへの指導や学校運営に役立てていく。保護者の方々とは、役員の方々の皆さんを中心に今後の持続可能なPTA活動について、丁寧に話し合っていく。
○多くの学級が週末に学年だよりを配布している。学校だよりや保健だより・給食だよりも学校や子どもたちの様子を知らせている。また、昨年度から導入した連絡用アプリ「スクリレ」にて、学級だよりだけでなく、学級のお知らせやお願いを配信している。	Aa	○来年度も学年だよりや学校だよりで子どもたちが学校で活躍したことを中心に紹介していく。学校だよりは、地域の方の立場に立って言葉を選んだり、写真を多用して少しでもわかりやすい紙面に心がける。
○毎週月曜日の重点研究会をはじめ、日常の授業に還る授業研究を継続して行ってきた。積極的に学級や授業を公開し、互いに学び合うことが日常の姿となっている。若い先生方が、ICTを活用した授業をはじめ、日々授業改善に前向きに取り組んでいる。	Bb	○来年度もそれぞれの職員が得意分野を生かし、授業公開を積極的に行い、互いの授業に学び合う授業研究を行う。また、10月20日(火)の上伊那教育研究会Ⅲでは、他校の実践から学んだことを校内でも共有し、自身の授業に生かしていく。

	<p>○教職員としての資質向上のための研修</p>	<p>○校外研修への参加・伝達、校内研修の充実により、教職員としての資質の向上を図ることができたか。</p>	<p>○事前に指定されている研修には前向きに取り組み、研修したことを全職員に周知する職員もいる。防犯研修・防災研修などにも積極的に取り組んだが、総合教育センター等、校外へ積極的に出て研修する機会は少なかった。</p>	<p>Bb</p>	<p>○校内での職員研修は、計画的に行う。係を中心に、職員が必要としている研修を精査し、優先順位をつけて行う。 ○校外での研修は、総合教育センター等、積極的に希望研修が受けられるように職員へ声をかけていく。</p>
--	---------------------------	--	--	-----------	---